

日本政策投資銀行 地域トーク in 宇和島

集客・交流産業都市 宇和島をめざして

～ 講 演 録 ～

2 0 0 6 年 7 月

(主 催) 日本政策投資銀行松山事務所

宇 和 島 市

目 次

1. 要 旨	P . 2
2. プログラム	P . 4
3. 基調講演	P . 6
4. パネルディスカッション	P . 18

(参考)

地域づくり健康診断資料ならびに議事録 P.29～

(平成18年1月31日開催)

1.要 旨

日本政策投資銀行はこのほど、宇和島市との共催で、地域の再生を目指すフォーラム「地域トーク in 宇和島」を開催しました。なおこのフォーラムは、同年1月31日に開催した「宇和島市地域づくり健康診断」(宇和島市共催)にて分析・提言した宇和島都市圏の現状を踏まえ、今後の宇和島をいかに活性化させていくのかをテーマに開催したものです。

プログラム

1. 基調講演

< 講師 > 日本エコツーリズム協会 理事 山田 桂一郎氏
日本政策投資銀行地域企画部 参事役 藻谷 浩介

[講演要旨]

宇和島市の現状・今後の課題

宇和島都市圏と全国の年齢別人口構成を比較すると、20～30歳代の所謂働き盛りの若者の数の少なさに特色が現れている。団塊世代は全国平均並に在住しているのに対し、「団塊ジュニア世代」が圧倒的に少ない。それは何故か？大学進学などのために宇和島を離れ、卒業後の雇用場がないことが主因なのではないか？

地域においてよく行われる議論で「交通が便利になれば地域の活性化は進む」という予測は、概してその通りにならない場合が多い。逆に、交通の便がよくなったばかりに、その土地に魅力がなければ、都心にヒト・モノ・カネを吸い取られてしまうのが現実。交通アクセスが悪くても「頑張っている」地域にはヒトが流れ込んでくる。八重山、湯布院、高山、そして四国では柚子ドリンクで情報発信している馬路村などの成功事例を真摯に学ぶべきだろう。

近い未来、宇和島まで高速道路が全通すればどうなるであろうか？“松山に行く宇和島市民”と“宇和島に来る松山市民”、果たしてどちらが多いだろうか。さらにストロー効果が進む前、今こそが、市民あげて動き出す最後のチャンスである。

取り組むべき産業 = 集客・交流産業

観光産業は、地域への波及効果の大きな産業の一つである。すなわち、観光客が増えれば、それに伴い地元の特色ある産業が活性化する、というわけである。

近年、観光のスタイルは大きく様変わりしている。団体旅行から個人旅行へ、利用交通手段もバスからマイカーへ。そして、旅行に対するマインドもひとり十色の時代になった。旅行者は訪れたその土地土地でしか味わえないものを望んでいる。こうしたニーズに応えるには「どのように地域資源を活かしていくか」がポイントになる。そのためには、まず地域の生活文化・魅力を地域の方々から認識し、誇りに思わなければならない。人は人の気持ちによって感動、満足し、そしてリピーターとなるのである。愛着をもって接すれば、顧客ならぬ“個客”にベストな満足を提供できる。目指すは「理想郷(リゾート)&理想人(りぞうと)」！

2. パネルディスカッション

前記講演の後、講師お二人に加え、地元で活躍中の下記お三方にも加わっていただき、パネルディスカッションを行いました。

< パネラー >

愛媛女子短期大学学長 大橋 博 氏

STS 地球環境蘇生会員 前田 真由美氏

宇和島市長 石橋 寛久氏

< コーディネーター >

日本政策投資銀行松山事務所長 鷓木 禎 嗣

[ディスカッションテーマ]

セッション1 ~ 「宇和島の現状認識」

- (大橋) 宇和島で学校経営を引き受けるかどうか思慮中に、「鯛飯」をはじめとした食事が美味しく感激した。現在は、より地域に密着した短大を標榜し、地域との交流事業に注力中。
- (前田) 周囲方々の温かい思いやりは宇和島の魅力。加えて宇和島は海も魅力。その海をもっと大切に少しでも地域に役立てる行動を起こそうと思い、目の前の缶拾いから始めている。
- (石橋) 付加価値の高い産品を数多持っていながら、PR不足により他地域に遅れをとっている。我々の今後の最大の課題は、産業・観光の振興、そして人口の流出を防ぐこと。

セッション2 ~ 「宇和島で頑張っている方々からのメッセージ」

[ビデオインタビュー実施] 1)主婦 佐々木 ヒジャ さん 2)会社経営 土居 一徳さん

- (佐々木) 風光明媚で地元の方は情も厚い。大変住みやすいところではあるが、教育面で不安。子育てをするには寂しい。公園も少なく児童館がない。子供たちがもっと自由に遊べる場所が欲しい。
- (土居) 宇和島は「日本一」の産品がたくさんあるが、それを有効活用出来ていない。自らが立ち上げた「真珠オーナー制度」を面的に広げていきたい。恵まれたソフトを活かし、宇和島をPRしたい。
- (大橋) 私は「高速道路は早く開通して欲しい」派。力のある地域には人が呼べるし、(外から来てみて)宇和島はポテンシャルがある。わが大学の特色である「スポーツ」を切り口に人を呼び込みたい。
- (石橋) 魅力的な地場産品の高付加価値化のために、行政としてもあらゆる策を講じ支援を行いたい。

セッション3 ~ 「宇和島の今後を考える(集客・交流都市形成に必要なもの)」

- (山田講師)「プロのおもてなし組織」づくりを。組織を作った上で遂行に支障となる法律をクリアしていくこと(特区化)。また、体制作りや地域づくりには欠かせない人づくりを。まず、きっかけと仕組みは行政から。
- (大橋) 行政は決して前に出ず、民間の力を大いに利用すべき。ただ、宇和島はまだ豊か過ぎる。「茹でガエル」にならないうちに、官民挙げてアイデアを振り絞っていきましょう。
- (前田) 宇和島には素晴らしい歴史や観光拠点がある。こうした「強み」を発信できるように、あるときは外からプロをスカウトし、またボランティア組織を組成してPRしていくべき。
- (藻谷講師) 宇和島は今のペースでいくと東京と一緒にひっくり返る子ガエルの筆頭候補。しかし、地域の皆さんがひとつの方向に向けて走り出せば、必ずこの流れは変わるはず。

以上

2. プログラム

平成18年3月6日

日本政策投資銀行 地域トーク in 宇和島 『集客・交流産業都市 宇和島をめざして』

主催：日本政策投資銀行松山事務所、宇和島市

後援：宇和島商工会議所、(財)日本経済研究所、(財)えひめ地域政策研究センター

会場：宇和島市役所庁舎 2階大会議室

1. 開会挨拶 <司会> 日本政策投資銀行 松山事務所長 鷓木 禎嗣

2. 市長挨拶 宇和島市長 石橋 寛久

3. 第1部 基調講演

「地域づくり健康診断」(1月31日実施)結果報告

日本政策投資銀行 地域企画部参事役 藻谷 浩介

講演「集客・交流産業都市 宇和島をめざして」

日本エコツーリズム協会 理事 山田 桂一郎 様

4. 第2部 パネルディスカッション

パネラー

愛媛女子短期大学学長 大橋 博 様

S T S地球環境蘇生会員 前田 真由美 様

宇和島市長 石橋 寛久 様

山田 桂一郎 講師

藻谷 浩介 講師

(コーディネーター：鷓木 禎嗣)

テーマ

1) パネラー自己紹介と宇和島都市圏の現状認識

2) 地域で活躍中の方々のメッセージ紹介と宇和島活性化のためのキーワード

3) これからの宇和島を考える～自由意見～

5. 閉会挨拶 日本政策投資銀行 四国支店長 廣田 泰孝

以上

山田 桂一郎(やまだ けいいちろう)

1987年よりスイス、ツェルマットに在住。

現地でJTIC.SWISS(日本語インフォメーションセンター/NPO)を創設し、ボランティアで日本人旅行者へ向けてインフォメーション活動を行うと共にツェルマット及びヴァレー州観光局の日本・アジア向けプロモーションを担当。現地では、ヨーロッパ・アルプス並びにスイス全土に渡る取材・撮影(TV、ラジオ、出版物等)、ライター、ビデオカメラマン、コーディネーター、通訳として活動。

冬は、現地で唯一の日本人スキー教師、夏は、ハイキング、トレッキングガイドとしても活動している。又、海外在住者として初めて日本の環境省に登録された環境カウンセラーでもあり、ヨーロッパを中心として自然環境保全活動等幅広い活動を進めると共に日本国内においても観光(地域活性、サービス向上、人材育成等)及び環境関係(環境保全活動プログラム、環境教育、環境アセスメント等)の講演を数多く実施。

最近は、日本国内におけるスキー教師、アウトドアガイド、選手等の育成事業における各種プロジェクト(トータルクオリティアップ:目的意識、判断力、モチベーション、起業マインド向上等)を推進している。

日本エコツーリズム協会講師、KJC観光ジャーナリスト会議メンバー、まちづくり観光研究所主席研究員、日本海洋記者クラブ会員。

[略 歴]

1965年 :三重県津市に生まれる

1987年10月30日:ツェルマット観光局日本・アジア向けプロモーション担当

日本からの視察団体受け入れ、カーフリーリゾートと街の環境保全活動に関する
レクチャー等も兼務。(以降、担当する視察団体は年間30団体程度)

1992年10月 1日:JTIC.SWISS(日本語インフォメーションセンター)を設立

ボランティアで日本人旅行者向けインフォメーション活動を開始

1994年 4月 1日:JTIC.SWISSにて自然環境教室、アウトドア体験ツアーを企画・主催

自らレクチャーやガイドを担当する傍ら「環境アドバイザー」「アウトドア・ツアーリーダー
(インタープリター)」の教育養成を開始

1996年 4月 1日:環境省環境カウンセラー(事業者部門)として登録される

登録番号/ No. 1996199001

1996年 6月 1日:ヴァレー州観光局日本・アジア向けプロモーション担当

1999年 6月 ~ :Mt.6 ベスト・オブ・ザ・クラシック・マウンテンリゾート

環境アドバイザー兼リゾートコンサルタント(CS推進)に就任

Mt.6とは、野沢温泉、蔵王温泉、志賀高原、草津、白馬八方尾根、妙高高原がリゾート
文化の創造と継承を誓い合った組織

2003年 2月16日:環境教育一般指導者

2003年 4月 1日:環境省環境カウンセラー(市民部門)として登録される

* 地方自治体向け研修講師及び講習は省略